

Invasive mucinous adenocarcinoma の気管支鏡での診断率の検討

2017年1月1日から2024年3月31日までに日本医科大学多摩永山病院において、病理学的に Invasive mucinous adenocarcinoma (IMA) と診断された患者さんのうち、呼吸器・腫瘍内科にて気管支鏡検査が施行された患者さん

研究協力をお願い

日本医科大学多摩永山病院呼吸器・腫瘍内科では「Invasive mucinous adenocarcinoma の気管支鏡での診断率の検討」という研究を行います。Invasive mucinous adenocarcinoma (IMA) は肺腺癌の中で約 5% を占める稀な組織型です。この研究は、2017年1月1日から2024年3月31日までに病理学的に IMA と診断された患者さんのうち、呼吸器・腫瘍内科にて気管支鏡検査を受けられた患者さんの気管支鏡での診断率を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもってご同意を頂いたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡ください。

(1) 研究の概要について

研究課題名：Invasive mucinous adenocarcinoma の気管支鏡での診断率の検討

研究予定期間：研究機関の長の実施許可日～2026年3月31日

調査対象期間：2017年1月1日～2024年3月31日

研究責任者：日本医科大学多摩永山病院 呼吸器・腫瘍内科 廣瀬 敬

(2) 研究の意義、目的について

肺癌の確定診断のために気管支鏡は大変重要な検査です。これまで IMA の気管支鏡での診断率、また診断に影響を及ぼす因子はほとんど知られておらず、本研究はそれを明らかにすることを目的とします。気管支鏡で診断に至らなかった IMA の臨床像、画像所見、気管支鏡手技などを明らかにすることで、IMA の気管支鏡診断率の向上に貢献できる可能性があります。

(3) 研究の方法について (研究に用いる試料・情報の種類)

2017年1月1日から2024年3月31日までに日本医科大学多摩永山病院にて、病理学的に IMA と診断され、かつ呼吸器・腫瘍内科にて気管支鏡が行われた患者さんにおいて、気管支鏡での診断率、また診断に影響を及ぼす因子について検討します。この研究は、患者さんの以下の情報を用いて行われます。

情報：年齢、性別、喫煙歴、病期、病理組織診断、バイオマーカー結果、血液検査所見、画像検査所見 (X 線、CT、PET-CT など)、気管支鏡検査所見 (内腔所見、気管支鏡手技の詳細、生検部位、生検回数など) 等

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用されません。また、研究発表時にも個人情報は使用されません。その他、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (文部科学省・厚生労働省)」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表します。

(6) 問い合わせ等の連絡先

担当者：呼吸器・腫瘍内科 久金 翔

日本医科大学多摩永山病院 倫理委員会事務局

〒206-8512 東京都多摩市永山1丁目7-1

電話番号：042-371-2111 (代表) 内線：2302

メールアドレス：nagayama-chiken_center@nms.ac.jp